

文献紹介

バリシチニブの円形脱毛症に対する治療反応性は4パターンに分かれる

JAK 阻害薬のバリシチニブは、重症(脱毛面積 50% 以上の)円形脱毛症に対し、各国で承認されているが、臨床効果を認めるまでに時間を要する。第 III 層臨床試験の結果を見ても、遅れて再発毛を得た患者がいたため、奏効率は 52 週間にわたり上昇した。

本論文は 2 つの臨床試験の患者がどのような経過で再発毛を得たか、機械学習法の 1 つ、Growth Mixture Modeling を用いて治療反応性を分類した。その結果、脱毛面積の 30% 改善(SALT₃₀)を 12 週以内、13~36 週、37~52 週に達成した early responders, gradual responders, late responders, そして 52 週で達成しなかった non-responders の 4 群に分類された。

バリシチニブ 1 日 4 mg 群と 2 mg 群を比較すると、early responders は 4 mg 群に多く、non-responders は 2 mg 群に多かった。脱毛面積 10% 未満、20% 未満にまで改善した患者の割合は early responders で高く、late responders で低かった。また、治療開始

時の重症度は non-responders や late responders で高い傾向にあった。罹患期間は、non-responders は 4 年以上の患者が多かったが、SALT₃₀ を達成した 3 つの responder のグループでは 4 年未満と 4 年以上の患者の割合に差は認めなかった。

最重症の患者が多く含まれた gradual や late responders では、脱毛面積の改善率が 52 週時点でもプラトーに到達しておらず、長期の観察期間が必要であることが明らかとなり、最重症の患者への治療期間は、さらなる検討が必要であることも示された。

King B, et al : When to expect scalp hair regrowth during treatment of severe alopecia areata with baricitinib : insights from trajectories analyses of patients enrolled in two phase III trials. Br J Dermatol 189 : 666-673, 2023

(慶應義塾大学 豊島 進)